

- ・ GTR<sup>※1</sup>13（水素燃料電池自動車）については、フェーズ1で議論がまとまらなかった金属材料の「水素適合性評価方法」に係る規定等を国際基準に取り込むため、国連の専門家会合で議論を行っている（フェーズ2）。
- ・ UNR<sup>※2</sup>110（天然ガス自動車）は、国連の専門家会合で各国から提出される改正提案を議論・交渉中。
- ・ 水素燃料電池二輪自動車は、2017年12月の国連の専門家会合で合意。**2018年12月に国内法令に取込み済**。

※1 GTR：自動車の基準適合性をメーカー自らが保証する「自己認証制度」採用国も含めて参加する1998協定に基づく自動車の装置ごとの世界統一基準。  
※2 UNR：自動車の基準適合性を政府等が認証する「政府認証制度」採用国が参加する1958協定に基づく自動車の装置ごとの基準調和及び認証の相互承認のための国連規則。

## 1. 水素燃料電池自動車について

- ▶ 一昨年より、日本及び米国の規制当局を共同議長として、国連の専門家会合で議論を開始（フェーズ2）。2020年末までの合意を目指している。

（議論経緯）

2017年10月 第一回非公式会合：会合の議題を定めるTerm of Reference（TOR）を各国で議論  
12月 衝突安全分科会（GRSP）：TORの議論  
2018年2月 第二回非公式会合：水素適合性評価方法等の議論を開始  
6月 第三回非公式会合 10月 第四回非公式会合  
2019年3月 第五回非公式会合



## 2. 天然ガス自動車について

- ▶ 国連で合意されたUNR110を2017年6月に国内法令に取込み、天然ガス自動車の国際相互承認制度をスタート。
- ▶ 年に2回開催される国連の安全一般分科会（GRSG）において、随時加盟国から改正提案が提出されるため、日本からの提案も含め各国の提案について議論・交渉中。

## 3. 水素燃料電池二輪自動車について

- ▶ 2017年12月に開催された国連の衝突安全分科会（GRSP）において、日本から国連規則を提案。この提案に対し加盟国からの賛同が得られ、日本主導で国際基準が制定された。
- ▶ 2018年6月に成立したUNR146を同年12月に国内法令に取込み済。